

コマンド・プロシジャ

【機能・用途】

コマンド・プロシジャは一連の TSS コマンド列をデータセットに準備しておくもので、そのデータセット名を指示して TSS の EXEC コマンドを入力すると、登録した一連のコマンド列があたかも一つ一つ入力されたかのように処理される。コマンド・プロシジャの主な特徴を以下にあげる。

- ①手順の定まった処理に対し、コマンド列を一度入力しておけばよいので、効率的な処理が行える。
むずかしい TSS コマンドをおぼえておく必要はなく、コマンドの入力ミスも防げる。
- ②コマンド文のほかに IF 文や DO 文などの条件文や SET 文、や READ 文などの代入文、そして制御変数、組込み関数が用意されており、これらを用いて場合に応じた幅広い処理を定義できる。
- ③コマンド・プロシジャで使用するコマンドのオペランド中のデータセット名、メンバ名などをそのつど会話的に与えるようにプロシジャを定義することもできる。
- ④コマンド・プロシジャ実行中にコマンドにエラーが発生した場合のエラー処理、アテンションが入力された場合のアテンション処理も簡単に行える。

【使用例】

FORTAN77 のプログラムを実行して計算結果を NLP に出力する。使用するデータが入ったメンバー名、NLP の出力クラスなどは実行中に端末から入力するものとする。なお、必要に応じてプログラムのデータセット名、メンバ名を実行開始時に指定できる。

```

PROC 0 DA(EX.DATA) P(KISS.FORT77) PM(ADD) L(A) PA( )
CONTROL NOFLUSH
MEM:WRITENR 入力データの入ったメンバ名を入力して下さい。   ==>
READ DM
ALLOC F(FT30F001) DA(&DA(&DM)) SHR REUSE
NLP:WRITENR  NLP の出力先を指定して下さい,C:1階  A:2階   ==>
READ SY
IF &SY=&STR(C) && &SY=&STR(A) THEN GOTO NLP
LPALLOC FT40F001 SY(&SY)
ERROR DO
WRITE コマンドでエラーが発生しました。
GOTO OW
END
FORT77 &P(&PM) OBJ(&L..OBJ(&PM)) &PA
LINK &L..OBJ(&PM) LOAD(&L..LOAD(&PM))
CALL &L..LOAD(&PM)
OW:ERROR OFF
DEL (&L..OBJ &L..LOAD)
FREE F(FT30F001 FT40F001)

```

【参考手引き】

1) FACOM OSIV/F4 MSP TSSコマンド文法書

【紹介 Y. T.】